

令和元年度 会員向け冬期特別研修会 報告

恒例の辰巳洋先生による特別研修会が1月19日開催されました。今年度は「中医学からみたガンの予防と治療」という内容でお話いただきました。古典にみるガンからはじまり、現代の中医学におけるガンの治療、予防にいたるまで食材、中薬、方剤などの紹介を含め詳しく説明くださり、大変密度の濃い講演会となりました。会場一杯の参加者にも好評のうちに終了しました。



講演要旨

中医学からみたガンの予防と治療

辰巳 洋氏

本草薬膳学院 学院長 医学博士

日本国際薬膳師会会長



「癌」という文字の登場は宋の時代にまでさかのぼる。古代より癌は「局部が固くなり変形するもの」とされ、昔から珍しくない病であった。現在、中医学において癌の病因・病機・臨床に対する検索、研究により癌の発生は体内の陰陽の失調、臓腑機能の低下、飲食の不節、外邪の侵入、情志の鬱血などが原因であり、癌の発生とつながることが認知されている。中医学が発達している中国では、中薬・方剤の防癌抗癌の研究が進んでいる。

癌の病因

癌の病因には、正気の虚弱、邪気の侵入、飲食の不節、情志の失調、性の生活、遺伝などがある。老化や生活習慣、環境汚染物質、日々のストレスによって、私たちを守る力（正気）が虚弱となり、癌が発病すると考えられている。特に 20 歳以降の不養生の積み重ねや、ストレスによる精神不安定は影響が大きい。癌を予防するために、生活環境、食生活を改善し、精神の安定をさせることが望ましい。日々の健康維持と定期的な健康診断を推奨する。

癌の病機

癌の病機として、虚弱、毒、熱、痰、鬱、癥のようなメカニズムがある。しかし、癌の病機は全身的な病気であるので、弁証するときに局部の弁証と全身の弁証が必要であり、それにいくつかの病機を重ねて一つの癌に現れることも多く存在している。

癌の基本弁証

中医学では西洋医学の診断と治療にあわせて、さまざまな弁証方法を用いて弁証する。

八綱弁証…病の表裏、寒熱、虚実、陰陽を判断する。

気血津液弁証、臓腑弁証、温病弁証…癌が気・血、臓・腑のどこに滞っているかを確定し、治療を論じる。

がん	大腸	胃	肝臓	すい臓	肺	鼻咽	甲状腺	腎臓	膀胱	前立腺	乳	子宮	卵巣	脳腫瘍	白血病	リンパがん	多発性骨髄腫
肝気鬱結			○				○										
肝胆湿熱			○														
肝胆実熱																	
肝風内動																	
脾胃気虚	○		○														
脾虚気滞				○													
脾虚痰湿		○															
脾胃虚寒		○															
脾腎気虚									○								
脾腎陽虚	○														○		○
胃陰虚		○															

がん	大腸	胃	肝臓	すい臓	肺	鼻咽	甲状腺	腎臓	膀胱	前立腺	乳	子宮	卵巣	脳腫瘍	白血病	リンパがん	多発性骨髄腫
肺陰虚					○												
邪毒肺熱						○											
痰熱阻肺					○												
腎陰虚																	○
腎陽虚証										○							
腎虚毒蘊								○									
肝胃不和		○															
肺胃陰虚						○											
心腎両虚							○										
肝腎陰虚	○		○					○					○	○			○
膀胱湿熱									○								

癌に対する治療は、中医学では、中薬・薬膳・経絡ツボ・気功を中心として対応する。癌が発生すると陰陽のバランスが崩れ、気血・臓腑の働きに異常が生じ、邪気の侵入がしやすくなる。すると病的な産物が多く産生され、癌の形成と進行を促進させ、続発性癌を引き起こす。それらを防ぐ為に、正気を補益し、気機を調理し、邪気や毒を取り除かなくてはならない。中薬・方剤の防癌抗癌の基本は「扶正固本」「活血化癥」である。加えて、癌による鬱状態に対応するため理気解鬱の方剤と食薬を用いてストレスを和らげることも重要である。

記：ホームページ管理部（田鹿）